

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「堺」

## みたみじんじゃ 美多弥神社



境内入口



石段上に拝殿・本殿



本殿のディテール



所在地： 堺市南区鴨谷台1丁49-1  
最寄駅： 泉北高速鉄道「光明池駅」または「梅・美木多駅」からバスにて10分  
TEL： 072-297-1179  
建築概要  
昭和47年に社殿が大改修されている  
本殿： 間口二間奥行二間の素木入母屋造銅板葺  
拝殿： 間口四間奥行二間の鉄筋コンクリート造銅板葺  
授興所： 間口一間半奥行一間

美多弥神社は、泉北ニュータウン光明池地区の住宅街の中にある。ここには「しりぶかがし」が多く繁茂する社叢が広く緑をたたえ、他に「くす」「さかき」「あらかし」などの照葉樹林(しょうようじゅりん)の姿もみえる。

祭神は、天児屋根命・熊野大神・巖島大神・大国主命・菅原大神・八幡大神・琴平大神・素盞鳴男命・天之水分大神を祭っている。当社は、延喜式神名帳にも記された古社である。天正年中織田信長の兵火にかかり焼失したが、文禄元年(1592)に至り和田道讃が本殿を再建した。近世では神仏混淆となり牛頭天王と改称、神宮寺(得泉寺)と宮座もあって、宮座の長老が寺の僧侶と共に社務を掌握していた。その後神仏分離令により寺を廃止、社名も八坂神社と改称し神官が奉職することになったが、明治の神社合祀策により同40年(1907)に付近の村社5社と無名社3社を合祀し社名も旧に復した。社叢は8250㎡になる。しりぶかがしはブナ科の常緑中高木で丘陵地などに生育するが、このように100本近くの樹林を形成する例は稀である。また分布上でも西日本に多いこの樹林の東限近くに当たる為に昭和48年(1973)3月30日に大阪府の天然記念物に指定されている。ムラサキシジミ、ムラサキツバメという蝶がしりぶかがしと共生しており紫色の羽根が美しい。

(七堂元敏)